

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212W403	看護学総合実習 (Clinical Practice of Nursing)	専門教育科目 統合分野

必修選択	単位	対象年次	学期	担当教員
必須	2	4	前	看護系教員

【授業の概要・到達目標】

本学科カリキュラム上、最終的な臨地実習である。本科目では、学生はこれまでの学びの統合から導き出した看護学上の探究課題に基づき、主体的・自律的に学ぶ姿勢をもって、実習(学習)の計画・実施・評価を行う。この実習過程をとおして、看護専門職としてエビデンスに基づいた看護実践および看護学の新たな知の探究に取り組む基礎的能力を培い、看護学への洞察を深めることをねらいとする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. これまでの学びを通して、看護学上の探究課題を明確にすることができる	○						○
2. 探究課題を踏まえ、実習(学習)計画を主体的・自律的に立案することができる		○		○	○	○	
3. 立案した実習(学習)計画に沿いながら、個・集団・地域を対象とした看護実践を行い、評価することができる。		○	○	○	○	○	
4. 自らの看護実践を振り返り、探究課題に対して考察することができる。				○	○		○
5. 実習全体での学びを通して、 1) 看護専門職としての自己の看護観を自分の言葉で記述することができる。 2) 看護専門職としての自律性、倫理性、責務、責任について自己の成長をふまえて考察することができる。	○						○

【授業の内容】

1. 本実習は、各看護学領域(基礎、精神、地域、母性、小児、成人、老年看護学)のプログラムに則って実施される。
2. 学生は、自分自身がつ看護学に関する疑問や興味、関心から追求したい課題を明らかにする。
3. 明らかになった課題に基づいて実習領域を選択し『実習課題届』を提出する。実習配置領域は『実習課題届』の記述内容によって調整・決定される。
4. 領域配置の発表以降は、領域毎に担当教員の指導を受け実習計画立案、実施、評価等を進める

【アクティブラーニング(D:知識の活用・創造)において学生がより深く学ぶための工夫】

学生とともに看護実践に関わり、事物を探究することの楽しさや面白さを感じながら、自己の課題を追究できるよう支援する。また、学生が実践の看護としての意義に気付いたり、看護の専門性や責務について考えを深められるよう支援する。

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	実習領域が決定する4月～8月にかけて、自己の課題を明確にするために文献検討やグループディスカッション、教員との個人面談を受ける。また、明確になった課題を実習で解決するために実習計画書を立案し、教員・実習地の管理者やスタッフと事前の打ち合わせを行う(45h)
事後学修	日々の実践を通して自己の課題解決に実習に取り組むとともに、科学的な視点で自己の実践を分析し、根拠に基づいた看護に対する理解を深める。また、実習終了後に自己の看護の振り返りとなるレポート作成に取り組み、看護学の洞察を深める(30h)

【教科書】必要に応じて各領域より提示する

【参考書】

関連する教科書、参考書、講義資料、文献等

【成績評価方法及び評価の割合】

- ・実習計画立案から実習全般、課題提出において、総合的に評価する。

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
課題の明確化と実習計画立案	40%	○	○		
実習と課題レポート	60%			○	○

【注意事項】 4年次の4月に全体オリエンテーションを行うので参加すること

【備考】 本実習は、各看護学領域における実習単位をすべて修得していることが履修条件である

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 原田千鶴 (看護師) 清水あき子 (看護師) 佐藤右貴子 (看護師) 野上龍太郎 (看護師) 岩本右一 (看護師) ● 折橋隆三 (看護師) 後藤裕穂 (保健師) 菅河原靖子 (保健師) 猪俣理恵 (助産師) 小柳麻央 (助産師) ● 幸松美智子 (看護師) 江藤中晴 (看護師) ● 末広理恵 (看護師) 脇 幸子 (看護師) 佐藤昂太郎 (看護師) 大野愛希 (看護師) ● 三浦英子 (看護師) 小野光美 (看護師) 阿留世史美 (看護師) 	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者		附属病院看護部職員、保健師、老健施設介護士・介護福祉士、実習病院看護職員
実務経験をいかした教育内容		臨床における最新の医療や看護の知識・技術に基づいた実習能力を習得する。 学生が将来就くであろう職業におけるロールモデルとして機能することで、看護職の育成や職業倫理に関する感受性を高める
授業形態		